

# 青山学院大学経済学部 同窓会の歩みと活動

## 2021年で経済学部の歴史は105年？

- 1916年に青山学院にあった高等科を高等学部へ改称して、人文学部、英語師範科、実業科、高等科予科を置くという改革を行いました。この中の実業科が経済学部の始まりです。
- その後紆余曲折を経て、戦後の1949年に新制大学の設置が認可され「青山学院大学」が開校しました。文学部（英米文学科）、商学部（商学科）、工学部（機械専修科・土木専修科：2年で関東学院大学に合併）の3学部4学科が置かれました。
- 商学部は1953年に経済学部と改められました。前身の商学部から合わせると2021年で創立72年を迎えます。歴史と伝統ある学部です。
- 新制大学以降の経済学部の沿革は下記のとおりです

学部	学科	沿革
商学部	商学科	1949～1953 (1953年度より経済学部へ)
	第二部商学科	1950～1953 (1953年度より経済学部へ)
経済学部	経済学科	1953
	第二部経済学科	1953 (2008年度より募集停止)
	現代経済デザイン学科	2008
	商学科	1953～1973 (1966年度より経営学部へ)
	第二部商学科	1953～1973 (1966年度より経営学部へ)

### ■現在の経済学部■

経済学部 経済学科(1953年創設)、現代経済デザイン学科(2008年創設)

学部長 平出尚道、教員数 47名(2020年4月1日現在)

学生数 2,285名 男子1,511名(66.1%)、女子774名(33.9%)(2021年5月1日現在)

## 経済学部の卒業生は49,757名を数えます

- 2021年3月末時点の経済学部卒業生は1949年に新制大学が設置されてから数えると、49,757名に上り、1年後には5万人を超えます。青山学院大学校友会大学部会の中でも最多であります。
- 卒業生は日本経済の基幹を構成する様々な分野に、広く優秀な人材を輩出し活躍しています。

## 経済学部同窓会の生い立ち、創設は 1999 年！

- 経済学部同窓会は 1999 年 9 月 23 日、第 6 回大学同窓祭の当日に設立、発足しました。  
発足以前から経済学部卒業生の間では、  
「同じ学び舎で学んだ卒業生が国内外様々な地域、産業、組織の一員としてあるいは個人として活躍している。卒業生同士でもっと連携し、切磋琢磨しよう。そして大学及び経済学部発展に繋がりたい」という強い希望を持っていました。
- しかし、当時は同窓会のような基盤のような繋がりはなく、何かをするにも拠り所のないまま、あくまでも個人的なこととして活動するしかありませんでした。
- この思いが会則にある  
「会員相互の親睦と研鑽を図り、大学及び経済学部の発展に寄与する」  
こととなり、基本的な理念となりました。

## 経済学部同窓会

### 『一般会員』・『アクティブ会員』とは？

- 経済学部（商学部含む）の卒業生は、卒業と同時に自動的に「青山学院校友会・大学部会・経済学部同窓会会員」になります。  
経済学部同窓会では「一般会員」と呼称します。
- 「アクティブ会員」とは聞き慣れない呼称ですが、同窓会活動に賛同し、「年会費」を支払ってくださる会員を「アクティブ会員」と呼称します。「アクティブ会員」へは登録が必要です。
- 現在までに約 1,700 名の卒業生が「アクティブ会員」に登録しています。

## 経済学部同窓会は

### どんな活動を行っているの？

設立の基本理念である「会員相互の親睦と研鑽を図り、大学及び経済学部発展に寄与する」を行動規範として、「年度総会」で決議された年間事業計画に基づき、

1. ホームページ、会報誌「オイコスノモス」の発行などの広告宣伝活動
  2. 経済、政治評論分野で活躍されている著名な講師をお招きして、経済学会と共催で開催する「公開講演会」などのアカデミック事業
  3. 「学生支援」「給付型奨学金」など大学への協力支援事業
- を三本柱に、その事業活動領域は幅広く多岐にわたっています。

# 経済学部同窓会をもっと詳しく

## Q & A

Q 1 「経済学部同窓会」という組織はどのような位置付けにあるのですか？

A 1 経済学部同窓会は全ての学校法人青山学院の卒業生で構成される「青山学院校友会」の孫組織になります。

A 2 経済学部同窓会は大学の他学部・学科同窓会とともに「大学部会」を構成しています。

「大学部会」は「青山学院校友会」の一部として「女子短期大学部会」・「高等部会」・「中等部会」・「初等部会」・「幼稚園部会」・「支部」・「登録諸団体（各種OB・OG会、ゼミ、アドグルなど）」と共に「青山学院校友会」の構成母体となっています。

「青山学院校友会」>「大学部会」>「経済学部同窓会」

Q 2 「経済学部同窓会」はどのような活動をしているのですか？

A 1 会則に謳っている「本会は会員相互の親睦と研鑽を図ると共に、大学及び経済学部の発展に寄与することを目的とする」に沿って様々な活動を実行しています。

A 2 具体的活動としては、

- (1) 総会 年1回
- (2) 常任幹事会 年6回
- (3) 経済学部同窓会報「オイコスノモス」の発行（年1回）
- (4) 経済学部同窓会「ホームページ」による同窓会・校友会・学校関連の情報提供
- (5) 研鑽事業として同窓会主催による「公開講演会」「特別記念講演会」の開催
- (6) 会員相互の親睦を図るため、親睦イベント見学ツアーの開催（年1回）
- (7) 在校生支援として経済学部在校生を対象とする「給付型奨学金」の提供
- (8) 大学部会への協力として、「青山学院大学同窓祭」への参加、協力（毎年9月の秋分の日）
- (9) 経済学部学生会主催のプレゼンテーションコンテストへの協力（年1回）

上記事業の企画・検討・提案のために奇数月第3木曜日に常任幹事会を開催しています。

## 主な事業活動をさらに具体的に説明しましょう！

### ★会報誌「オイコスノモス」★

[Oikos]とは家計、家政の意味で、古代ギリシャにおけるポリス(都市国家)の経済の最小構成単位とも呼べるものです。[Nomos]は規制、規範、きまり、術などの意味を持っています。それ故、「オイコス・ノモス」は家政術、家計術の意味を持っています。

青山学院大学経済学部同窓会を一つのオイコスとみだてて、そのノモスを守りながら発展させていこうということを、同窓会ニューズレターの名称にこめました。「オイコスノモス」は2019年度で25号を発刊し、会員同士の親睦とコミュニケーションツールとして役立っています。2020年度は2021年3月24日に26号を発刊。

### ★公開講演会★

大学経済学会との共催で恒例となった公開講演会は、毎年開催時期に最もタイムリーな政治経済情勢に対しての解説とその将来展望などを的確かつ示唆に富んだお話をいただける、各界の著名な講師を招聘して開催しています。

2005年に第1回が開催され、2019年9月までに33回の講演会を開催しました。

これまでに下記の講師をお招きしました(過去8年間)。

2012年 藤原 帰一氏(東京大学大学院教授)「内政優位の政治と国際関係」

神野 直彦氏(東京大学名誉教授)「財政危機と経済危機を超えて」

2013年 森田 実氏(政治評論家)「参院選情勢と政局展望！」

中岡 望氏(ジャーナリスト)「なぜ日本はアメリカを理解できないのか～(略)～」

2014年 吉崎 達彦氏(双日総合研究所副所長)「地政学的リスクと日本経済～(略)～」

渡部 恒雄氏(東京財団ディレクター/上席研究員)「新しい日米関係」

2015年 永濱 利廣氏(第一生命経済研究所首席エコノミスト)「アベノミクスの評価と今後」

富坂 聰氏(拓殖大学海外事情研究所教授)「中国事情と今後について」

2016年 八代 尚宏(昭和女子大学グローバルビジネス学部特命教授)「労働市場改革の現状と課題」

川本 裕子(早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール)教授

「オリンピック・パラリンピックまでにすべきこと」

**2017年度からは9月開催の大学同窓祭に合わせて特別記念講演会として年1回の実施に変更。**

2017年 浜 矩子(同志社大学大学院ビジネス研究科)教授 「トランポノミクスとアベノミクス」

2018年 富坂 聰(拓殖大学海外事業研究所)教授 「急変する中国と日本、そしてアジア」

2019年 美添 泰人(一般社団法人新情報センター会長)・(青山学院大学経営学部プロジェクト)教授  
「今、統計が面白い！」

嵐峰 義清(第一生命経済研究所取締役主席エコノミスト) :対談 美添 泰人

**2020年9月22日に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止としました。**

### ★親睦イベント★

会員相互の親睦を図るために2011年から親睦イベントを開催しました。

2011年 「秋の築地市場見学ツアー」

2012年 「東京都庁見学ツアー」

2014年 「国会見学ツアー」(選挙のため中止)

2015年 「秋の築地市場見学ツアーPART II」

2016年 「JAXA 相模原キャンパス & 青山学院大学相模原キャンパス見学ツアー」

2017年 「JAL 工場見学～SKY MUSEUM～」

2018年 「東京下町ツアー第1弾:両国界限ツアー」

2019年 「すみだまち歩きツアー第2弾～向島をゆく」

**2020年10月末に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止としました。**

### ★大学経済学部学生会への支援★

従来の経済学部ゼミナールに参加する3～4年生で組織していた経済学部ゼミナール連合会を2014年4月に組織変更し、経済学部の1年生から4年生で組織する経済学部学生会となりました。

経済学部同窓会では11月に開催される学生会主催の「プレゼンテーションコンテスト」に審査員として参加するとともに、優秀チームには粗品を贈呈しています。2020年度はコロナ禍において11月28日にオンラインで11チームが参加して実施、同窓会から6名の審査員を派遣しました。

また、学生会との交流と親睦を深めるため常任幹事会(7月・12月)に合同の交流会を開催していますが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止としました。

—経済学部同窓会は将来を担う経済学部生のために最大限支援を続けていきます—

### 『青山学院大学経済学部同窓会給付型奨学金』



Q3 「経済学部同窓会奨学金」はどのようなものですか？

A1 経済学部同窓会では、冠付き奨学金「青山学院大学経済学部同窓会給付型奨学金」を設けています。2004年度から年会費及び「MITEBOX」の募金、また寄付金により経済学部生2～3名を対象に1名15万円を継続して給付しています。

A2 2004年度から2020年度現在までの給付者数及び給付額累計は下記のとおりです。

●給付者数 37名(1名15万円)

●給付額累計 555万円

Q4 今後も奨学金給付は継続するのですか？

A1 経済学部生の中には家庭の事情等で恵まれた環境にいる者ばかりとは限りません。親に面倒を掛けたくないで学費の足しにしたい、留学をしたいけどアルバイトだけでは賅えない等様々な悩みを抱えている学生もいます。同窓会ではそのような学生の夢を叶え、4年間より良い環境の中で勉学に励むことができるように今後も支援を続けていきます。

A2 2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響は、本学学生にも及んでいます。1年以上経った今でも対面授業ができない等、毎日不安を抱えながら学生生活を送っています。皆様も報道でご承知のように保護者の収入減や、学生自身がバイト切りに遭うなどして、授業料や家賃・水道光熱費が払えない、1日の食生活にも困る、最終的には退学をも考えている等、経済的困窮に追い込まれている学生は少なからずいます。大学での学びをあきらめ退学せざるを得ない学生を決して生み出さないような支援と経済学部卒業生皆様のご協力が今必要です。

A3 しかしながら、会費収入が年々減っているのが実情です。同窓会ではあらゆる無駄を省き、支出を抑える努力を重ねて省力化、効率化を図っています。できれば給付対象者を増やしたい想いですが、「アクティブ会員」の増強無くして実現できません。一人でも多くの経済学部卒業生に「アクティブ会員」になっていただきたいと願っています。

Q5 「アクティブ会員」になった場合、経済学部同窓会の「年会費」はいくらですか？

A1 アクティブ会員年会費は「毎年お支払いの年会費コース」、「10年分纏めてお支払いの(10年会費)コース」、「55歳を過ぎたら一括の終身会費コース」のお支払いコースを任意で選んでいただいています。

- (1) 年会費コース 1年ごとに3千円(但し、新卒業生の初年度会費は1千円)
- (2) 5年会費コース 5年会員:5年纏めて1万円(30歳未満)
- (3) 10年会費コース 10年会費:10年纏めて2万円(年齢不問。10年分一括)
- (4) 終身会費コース 終身会員:55歳を過ぎたら3万円(55歳以上の会員対象)

Q6 「アクティブ会員」として参加の手続きは?

A1 「アクティブ会員」になっていただくためには、「会員登録」と「会費納入」が必要となります。

(資料)

- ・青山学院大学経済学部卒業生の皆様へ 同窓会アクティブ会員のご案内
- ・経済学部同窓会 アクティブ会員登録票
- ・会報誌「オイコスノモス」

Q7 「アクティブ会員」に登録するとどうなりますか?

A1 (1) 年次総会・講演会・懇親会のご案内をいたします。

(2) 会報誌「オイコスノモス」を郵送いたします。

(3) 同窓会が主催する講演会や、企画する各イベントをお知らせします。

また、同窓会活動を通じ親睦を深め、できれば常任幹事として企画にも参加いただきたいと思います。